

災害関連死 認定率に差

避難生活の疲労やストレスに起因する「災害関連死」を巡り、市町村による認定率のばらつきが課題となっている。死者の8割が関連死だった5年前の熊本地震では認定率に最大4倍の開きが発生。認定されず災害申請金を受け取れなかった遺族が訴訟を起こす事態に発展した。国は統一認定基準やガイドラインを示しておらず、不十分な情報開示も制度の不信を招いている。

関連死は長引く避難生活に起こる要因とされる。阪神大震災の災害など間接的な原因による関連死は死者全体の1割に達し、遺族が自治体で申請し、医師や弁護士に訴え、熊本地震の多さが際立つ。熊本地震で課題として浮上ったのが、申請先の市町村によって大きく異なる認定率だ。認定の金も2分の1、都道府県と市町村が4分の1ずつ負担する。

長期避難で悪化
熊本地震では熊本県内で273人が死亡。家庭内での死亡などによる直接死は50人で、災害関連死は8割の218人にとった。避難生活の長期化で体調を崩す高齢者が相次

災害関連死の認定率

【熊本地震】

熊本市	22%
宇土市	45%
宇城市	43%
阿蘇市	61%
南阿蘇村	48%
御船町	35%
益城町	45%

【西日本豪雨】

岡山県倉敷市	53%
総社市	100%
高梁市	40%
広島県呉市	67%
三原市	93%
東広島市	73%

【2019年・台風19号】

長野市	93%
福島県いわき市	80%

熊本地震4倍 統一基準なく

「事例蓄積や検証 推進を」

よつとする自治体で差が生じた可能性がある。調査する自治体のマンパワーや申請金を支払った財源力が影響している恐れがある」と指摘する。

その後の災害でも認定率の格差は解消されていない。

18年7月の西日本豪雨で被害が大きかった岡山、広島、愛媛の3県について日本経済新聞が調べたところ、県平均で最も認定率が高かった広島県(84%)と、愛媛県(60%)、岡山県(57%)で、20%以上の差が出た。岡山県は全壊家屋が8千棟以上で被災地全体の半数近くを占め、厳しい避難生活を送った被災者も多いが、認定率は3県で最低だった。

遺族が市を提訴
市町村では、大規模な河川氾濫が起きた真備町地区のある岡山県倉敷市の認定率が53%(43人中23人)。3県の市町村のうち5人以上申請があった6市の中で2番目に低かった。同県総社市は申請した8人全てが認定された。

被災者ごとに状況が異なるとはいえず認定率のばらつきに不信感を抱く遺族は少なくない。熊本市では20年12月、熊本地震の遺族が認定を不服として市を提訴。東日本大震災では裁判で自治体の不認定が覆された例もある。課題の一つは、統一した認定基準がないことだ。各市町村は過去の関連死の事例や裁判所の判断を踏まえて独自の基準を設けて審査会に提示しているが、19年10月の台風19号で初めて審査会を開いた長野市の担当者は「被災自治体は混乱しており、国の基準があれば助かる」とこぼす。

審査会の構成も各市町村で異なる。医師や弁護士ら5人前後で構成され

(注)自治体への取材に基づく。熊本地震は申請20人以上、西日本豪雨は台風19号は5人以上の被害者が対象



熊本県庁で開かれた追悼式。参加者は間隔を空けて着席した(14日)

情報開示もばらつき 審査結果や基準

災害関連死を巡っては、自治体の情報開示にも差がある。西日本豪雨の被災地でも、岡山市などでは認定基準をホームページで見られるが、広島市などは公開していない。同市は「今後公開を検討したい」と話す。

審査結果についても、愛媛県宇和島市は「被害を受けたミカン畑と自宅の復旧作業で心身ともに疲労が蓄積し、脳内出血の発症リスクを高めた」といった具体的な情報を発表した。死因などを非公開とする自治体も少なくない。

市町村が審査を真に委託する場合もあり、東日本大震災の被災地では「県の審査会で災害との関連性なしと判断された」といった結果だけが遺族に伝えられた例もあった。審査結果を遺族や市民にどの程度開示するかについてもルールづくりを求める声が上がっている。

「支援最後の一人まで」

熊本地震5年 追悼式
熊本、大分両県で災害だ」と述べた。

関連死の221人を含む計2776人が犠牲となった2016年4月の熊本地震は14日、最大震度7の「前震」から5年を迎える。熊本市で追悼式が開かれた。

式典は新型コロナウイルス感染症防止のため、昨年に続き参加者を制限し、約4万3千棟が全壊し、仮設住宅入居者は一時4万7千人を超えた。熊本市は今なお418人(3月末時点)が仮設住宅で暮らす。この1年で、R豊肥線の肥後大津1・阿蘇間が復旧、崩落した阿蘇大橋も架け替えられた。

地震では両県で住宅計約4万3千棟が全壊し、仮設住宅入居者は一時4万7千人を超えた。熊本市は今なお418人(3月末時点)が仮設住宅で暮らす。この1年で、R豊肥線の肥後大津1・阿蘇間が復旧、崩落した阿蘇大橋も架け替えられた。

熊本市は「(認定の公平性を確保するには)多数が多い場合は複数の審査会を設けて審査に十分な時間を確保するなど遺族が納得できる仕組みを整える必要がある」と話している。

熊本市は「(認定の公平性を確保するには)多数が多い場合は複数の審査会を設けて審査に十分な時間を確保するなど遺族が納得できる仕組みを整える必要がある」と話している。

第208回数字選択式全国自治体くじ 全5抽せん結果【抽せん数字】(14日)

01	07	12
18	FREE	23
26	35	38

第5671回 数字選択式全国自治体くじ抽せん結果(14日)【ナンバーズ3】

▽ストリート 680 120,500円
▽ボックス 20,000円
▽セレクト 70,200円
▽セットボックス 10,000円
▽ミニ2下ケタ 80 12,000円
【ナンバーズ4】
▽ストリート 6017 870,000円
▽ボックス 36,200円
▽セットボックス 453,100円
▽セットボックス 18,100円

1等 11,005,900円(2口)
2等 366,000円(49口)
3等 58,500円(138口)
4等 21,000円(621口)
5等 2,900円(3983口)
6等 700円(23224口)
7等 200円(213869口)